

ぎふちょう発生地



指定区分	県指定天然記念物
読みかた	ぎふちょうはっせいち
所在地	真庭市蒜山
指定年月日	昭和34年3月27日
解説	成虫の開張は5～6cmほど。ハネは黄色と黒のだんだら(縦じま)模様で、かつては「ダンドラチョウ」とも呼ばれた。後ハネの外側には青・橙・赤の斑紋が並び、尾状突起をもつ。他のチョウに先がけ成虫は春に発生する。里山に生息し、日本の本州南部と四国のみ残っている。近年、里山の放棄、開発などにより個体数の減少が著しい。
アクセス方法	
公開状況	
設備	
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	県指定天然記念物
ぶんかざいめい (文化財名)	ぎふちょう発生地
よみかた	ぎふちょうはっせいち
しょざいち (所在地)	真庭市蒜山
していたひ (指定した日)	昭和34年3月27日
せつめい	羽を広げた長さが、およそ5から6センチほどのチョウです。ハネは黄色と黒の「だんだら模様(もよう)」というたてじまがついていて、かつては「ダンダラチョウ」ともよばれました。日本の本州南部(ほんしゅうなんぶ)と四国(しこく)のみ生き残(のこ)っています。里山(さとやま)にすんでいます。が、開発(かいはつ)などによって、数がどんどん減(へ)ってきています。